

子育て支援メッセいしかわ2022

— 親子で安全に楽しんでもらえる時間を —

団体名 ● 子育て支援メッセ実行委員会(事務局:(公財)いしかわ結婚・子育て支援財団内)芥川ゼミナール
代表者名 ● 芥川元喜(人間科学部こども学科・准教授)

はじめに

芥川ゼミナール2年生と3年生が「子育て支援メッセいしかわ2022」(子育て支援メッセ実行委員会主催:11月20日(日))に参画をさせて頂いた。

「子育て支援メッセいしかわ」は4年続けて、4回目の参加をさせて頂いた。開催方法は、3年ぶりに石川県産業展示館4号館で対面開催となった。

1. 企画・準備段階の活動

ゼミ生は、実行委員会の責任者、村上昌稔さんと田上宗一郎さん(公益財団法人いしかわ結婚・子育て支援財団)から直接、開催の趣旨説明をお聞きし、自分たちでどんなことができるかを考えるところから始まった。また、実行委員会の村上さん、田上さんから、やってみたいこと、自分たちのできることを自分たちでゼロから考えて、と、学生の主体性を尊重するように学生を導いてくださったおかげで、学生たちはとてもやる気になり、任された各ブースに強い責任感を持って取り組みを始めた。

(1)「こども縁日」コーナーの企画(2年生)

2年生は、親子で楽しんでもらえる企画を考えようと話し合いを重ね、「こども縁日」ブースを企画、運営することにした。

「こども縁日」では、魚釣りゲームコーナー、ボール投げコーナー、輪投げコーナー、親子での来場記念撮影コーナー、の4つのコーナーを全て手作りすることにした。実行委員会の村上さん、田上さんから助言を受けながら、子どもたちが喜ぶことはもちろん、親子で楽しめるコーナーにしようとゼミの時間以外にも集まり、制作活動を行った。



(2)「バッテリーカー」コーナーの企画(3年生)

3年生は「バッテリーカーコーナー」の運営を行うことになり、当日の運営方法や事前に準備するものなどを話し合った。実行委員会の村上さん、田上さんからも直接助言を受けながら、乗車する親子の安全を第一にした運営方法について話し合い、準備を進めた。

(3)ゼミナール全員の力で連携して取り組む

当日は安全にコーナーを運営するために、芥川ゼミ4年生、6名も応援に加わり、こども縁日、バッテリーカーコーナーを運営することにした。その為に学生同士の事前の打ち合わせも入念に行った(P62:左上写真は全員参加での打ち合わせの様子)。

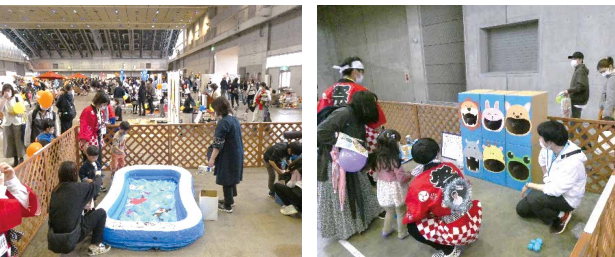
2. 開催当日の活動

3年ぶりの対面開催とあって、会場の産業展示館4号館には開場前の朝から、多くの親子が行列をつくり、活気にあふれていた。



(1)「こども縁日」コーナーの運営(2年生)

開場とともにコーナーに走ってきてくれた親子もいて、開場から間もなく、コロナ感染対策として入場は10家族までにしていたが、満員になった。



「こども縁日」ということで、学生は皆、揃いの法被を着用し、来場する子どもたちを出迎えた。どのコーナーも学生が手作りした遊びコーナーで、参加した子どもたちは楽しそうに遊ぶことができていた。一時は、ブースを取り囲む親子の行列ができていた。学生の想像を超える、多くの親子が参加をしてくださったので、最初は臨機応変の対応に戸惑う学生もいたが、少しずつ場の雰囲気慣れ、精一杯対応しようと皆、頑張っていて取り組んでいた。

(2)バッテリーカーコーナーの運営(3年生)

6名の学生たちは受付、整理券の配布、バッテリーカー、行列の整理、それぞれの担当場所で運営を行った。多くの御家族が参加して下さり、バッテリーカーを楽しんでくださっていた。行列の対応にも気を遣っていたが、一番大事なことは安全面であった



ので、親子がケガをしないよう、緊張感を持って取り組んでいた。

3. 成果、結果の考察

メッセは、最終的には、のべ10,000人を超える入場者であった。こども縁日、バッテリーカーコーナーも学生の受付集計によると、それぞれ、のべ1,000人を超える入場者となった。学生は企画の話し合い、準備で多くの時間を費やした。しかし、その取り組んだ分、学生には達成感、充実感があった。活動後の学生の感想には、会場で「とても楽しい企画だったよ。」「よく考えて作られているね。」「楽しい企画をありがとう。」と、参加して下さった保護者の方から直接、多くの声を頂いたことがとても嬉しかった、とあった。また、子どもたちが自分たちのブースで、笑顔で楽しそうにしている姿がとても嬉しかった、とあった。こうした直接の多くの親子との交流は学生にとってかけがえのない体験となった。

コロナ禍、子育て世代への想像力を働かせながら、自分たちに何ができるのかをゼロから考え、行動できたことは学生にとって確かな学びとなった。本ゼミナール所属で小学校教員となった卒業生がこの「子育てメッセ」に大学時代に参画したことは忘れられない、子育て世代のためのイベントの大切さがいまはもっとよく分かる、と語ってくれたことがある。学生が参画して学び得たことは学生のこれからのきっとつながっていく。

最後に、活動には実行委員会の方々のお力を借りた。学生からの問い合わせ等にもすぐに対応して頂いた。こうした方々の温かい支えがあったことも学生たちの大きな励みとなった。感謝を申し上げたい。